

附属高等学校のネットワーク・パソコンシステム

附属高等学校 井上嘉夫

1. 高校のパソコンシステム

現在、高校において主に利用しているパソコンシステムは下記の通りである。

- (1) インターネットパソコン
- (2) 遠隔授業システム
- (3) テレビ会議システム
- (4) ビデオオンデマンドシステム
- (5) 成績処理システム
- (6) C A I システム
- (7) 図書システム

(1) インターネットパソコン

各教官室(15台)、コンピューター教室(22台)、LL教室(10台)、授業研究室(図書室(3台))に配置。そのほか多目的ホールや小会議室などにいわゆる情報コンセントを設置し、それらの部屋でもインターネットを始めネットワーク資産が利用できるように貸し出し用ノートパソコン2台がある。各パソコンは大学のサーバーに接続されている。(図1)

(2) 遠隔授業システム

地理教室に設置。

(3) テレビ会議システム

保管場所として事務室。

(4) ビデオオンデマンドシステム

教務部室に配置。

(5) 成績処理システム

各教官室(13台)にインターネットパソコンとは別にLANを構築し、教材編集室のサーバーに接続(図2)。生徒の個人情報(出欠、成績、健康、クラブ活動など)を一元管理し、通知票、調査書、指導要録、各種証明書などの出力や各種指導用資料の作成・分析に利用。

(6) C A I システム

1994年より、現在のインターネットパソコンとは別に、コンピューター教室には40台のパソコンでC A I が可能なLANが構築されている。おもに数学や理科の一斉授業で利用。

(7) 図書システム

サーバー1台、端末2台で図書管理、貸出・返却、検索に利用。ほかに、蔵書点検用にノートパソコンもある。年に1回、蔵書データを成績処理システムへ流し込み、各教官室での検索も可能にしている。

2. ネットワークやサーバーについて

主なネットワークとしてはインターネット用と成績処理用の2つを独立して構築している。独立することで生徒の個人情報の漏出を防いでいる。詳しくは配置図（図1，図2）を参照されたい。図書システムでは、サーバーの管理以外は図書委員が操作している。システムに2000年問題があり、対応を予定している。

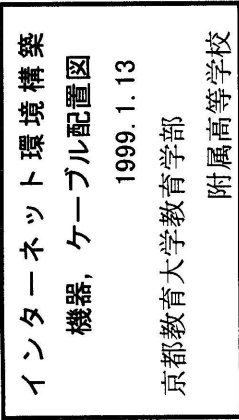
3. パソコン，ネットワークの教育への利用。

インターネットを利用した教育への利用として校内での方向性の確認は特になされてはいない。6月に生徒利用を始めてから1ヶ月間の生徒の様子を見てみると、授業で出された課題や発表形式の授業のための資料収集といった利用で盛況であった。また、授業研究室（図書室）で授業を行い、資料収集方法の選択肢の一つとしてインターネットも利用させる授業が行われた。

コンピューター教室は放課後、授業研究室は随時、生徒が利用できるようにパソコンを開放している。また、生徒の電子メール利用、生徒全員へのメールアドレスの配布については検討中である。

いまのところ、パーソナルコンピューターの名の通り、（生徒）個人の活動を支援する形での利用が中心となっている。実際、生徒の利用も多い。しかし、家庭でのパソコンやインターネットの普及が進んでいる現在、今のままでは学校でパソコンを利用する魅力はなくなってしまう。ネットワーク環境を利用して、学校ならではの活動（になるかどうかはわからないが）を試みようとしている教師もいるなど、今後の利用について模索中である。

テレビ会議システム、遠隔授業システム、ビデオオンデマンドの利用の方向性についても現在のところ校内で特に確認がなされているわけではない。しかし高校では、研究部が中心となって特別講師制度を設けており、その一環として他校の授業（特に大学教官の授業）を受ける機会が増やせるのではないかと期待する教師もいる。また、教育実習における利用として、実習生の授業を大学へ送り、大学で蓄積することで、より内容の濃い実習生指導が可能になるのではないかと期待している。



-8-

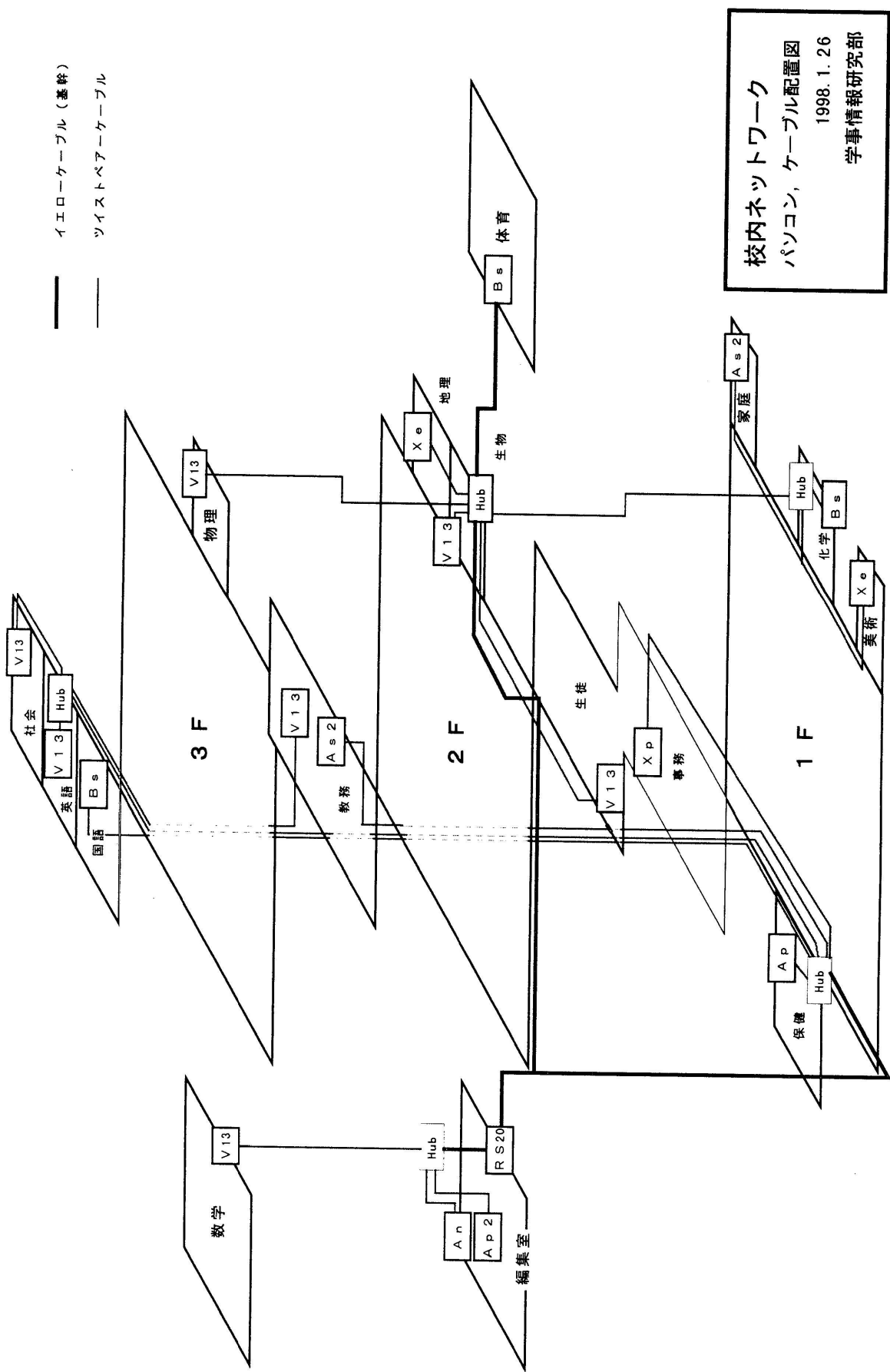
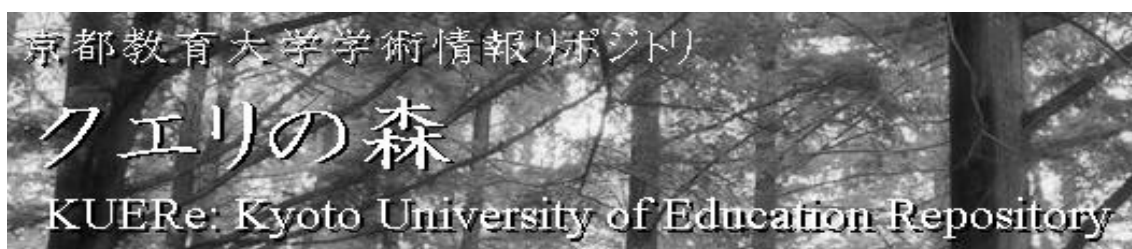


図 2



この文献は、国立情報学研究所において電子化されたものを、本学でテキスト加工したものです。

